

# 得意先、取引先と想いを一つに「満開の桜」を「ANTHOLOGY in OSAKA」で咲かせる

3月17日(日)・18日(月)／リーガロイヤル大阪＝

## MISS ANTHOLOGYが誕生する ミス アンソロジー

3月17日(日)・18日(月)に、リーガロイヤル大阪3階・光琳で開催される「ANTHOLOGY in OSAKA」では、国内外の選りすぐりのジュエリーをはじめ、デザイナーズジュエリー、ブランド時計に、スペシャルゲストと大型催事ならではの豪華な設えが当たり前のようには整えられており、主催する栄光時計(株)が昨年、業界が一丸となって宝飾市場の活性化に挑もうと、今年も全国の小売店にアンソロジーへの参加を呼びかけている。

昨年は真のジュエリーの魅力をキーワードに、「センス」「美しさ」「個性」にスポットを当て、品質、ものづくり、デザイン、歴史に拘るブランド、デザイナー、作家をアンソロジーとして継承していくことを掲げ、これまでのアンソロジーの良さを継承しつつも、これからの時代を見据え国内市場を盛り上げようとするアンソロジーへと舵を切り注目を集めた。

注目が続く同社の今年のテーマは「攻・KOU」「継・KEI」「守・SHU」。昨年に続き攻めの姿勢がより強く現れている。

これまで通り「世界の至宝展」と冠が付くように、華やかで確かな海外ブランドをはじめ、個性豊かな日本のデザイナー、高い技術で芸術的な作品を生む作家による「本物」のジュエリーの競演によって、追求された「技術」(ものづくり)、「価値」、「デザイン」、「希少性」、「センス」などに改めてスポットを当て、その魅力はどこにあり、本当のジュエリーの輝きをひとつでも多く伝えていく特別な場としての演出が施される。

その狙いは、本来のジュエリーショップの役割とは何かを考えさせること。顧客が憧れるジュエリーを日頃から紹介できているか、想像を超えた作品を手にとらせているのか。顧客が望む現在のジュエリー像を追い求めているかが問われているのだ。

本来のジュエリーは希少性や資産性だけでなく、デザイン性や芸術性の高いもので、技術力も求められる。ファッショントレンドなどは現代社会のビジネスに合わせたもので、選り抜かれた優美な煌めきは、個性やセンス、技術、美しさを及ぶものではなく、その一つ一つが追及されてこそ、ひとつの作品として魅了されるべきものである。

そのために大事なものは知識と経験による審美眼を持つことだが、直ぐに身に付けられるものではない。そこにいま向かっていくためには、同じ想いのあるメーカーや販売店と共に、考えを一

致させていくこと。華やかな会場を演出すると共にアンソロジーの大切な役割として、どの部分が「本物」かを消費者に伝える場であることを関係者全員が認識することだ。そのために、新たな消費マインドの環境づくりを取引先と一丸となって盛り上げていこうと全国7拠点のスタッフが総力を上げて「おもてなし」の準備を進めている。

アンソロジーから始まる新たな提案を視察することも可能だ。すべては国

内市場の活性化のため。来場者に喜んでもらうことはもちろんだが、本物の魅力を全力で伝えることで、その次の子や孫への継承や日本のジュエリー文化を生み出すことに繋げていきたいのだ。初参加の小売店も受け付けている。この熱い想いを会場と感じてもらいたい。希望する場合は、アンソロジー大阪執行部まで連絡を(TEL:06-6244-8840)。

## 若年層へ「本物」を伝える インフルエンサーとしての役割担う MISS ANTHOLOGY



この様に大型催事の良さを受け継いできたアンソロジーの歴史を重んじながらも、すぐ先にある未来のジュエリー業界にメッセージを残す大切な2日間とするべく、今回のアンソロジーでは国内初となる初代ANTHOLOGY広報大使のMISS ANTHOLOGYを、会期初日の17日に誕生させる。

すでにこの企画は動いており、予選としてセミファイナリスト12名の中からファイナリスト9名の選考が始まっていた。

選考方法は、Instagram上にいるセミファイナリスト12名のWEB投票25%、SNS審査25%、個人面談50%の割合で審査され、9名に絞られる予定だ。決して会場内や関係者だけの審査ではなく、一般を巻き込むInstagramが利用されている点に注目したい。

ファイナリストに入った9名(写真:上)は、17日の13時からスタートする披露会にジュエリーを身に付けて登場する予定となっている。来場者に対するブランドのPRの場としても活用できるので足を運び見学したい。

その後、ファイナリスト関係者やインフルエンサーの招待客と仕事関係者による「GALA PARTY presented by EIKO WATCH」が別会場、19日より開始される。パーティでは、インフルエンサーによるファイナリストの撮影会やファイナリストのスピーチなどで盛り上げ、最終的に特別審査員賞、準グランプリ、グランプリを発表する流れとなっている。なお、グランプリの選考は、WEB投票30%、当日票30%、審査員票(当日審査、SNS審査含む)40%で審査される。

初代のMISS ANTHOLOGYに輝くと、ANTHOLOGYの広報大使となる。栄光時計の自社ブランドのPR大使として1年間、専属のアmbassadorやモデルとして活動する予定だ。この一年を通して新たな活動による国内市場の活性化が期待されると、取引先も積極的に参画し、この企画に協力していかねばならない。一丸となった活動と支援が求められる。

星のようにキラめき出します。大阪のものも、どうやら万博の興奮を目指して動き始めています。外人観光客も多く、道頓堀の超アジア的混沌も他の都市にはない面白さです。会場のリーガロイヤルホテルも世界一のホテル・グループの一員となります。是非賑々しくご来会下さることをお願い申し上げます。

## 未来へ残すメッセージ

現在のジュエリー業界は若年層をターゲットにした活動は少ない。決して若年層でジュエリー離れが起こっているからではない。

逆におしゃれな若者は年々増えており、ジュエリー業界にはないデザインのアクセサリを身に付けている若者は多い。

多様性や個人主義から人それぞれの価値観が育まれ、自分が好きなことやモノを追求する人が増えていくように、ジュエリーが好きな人の中でも同じように個人の価値観が追及されたものが求められている。

業界としては新たな顧客の掘り起こしや、幅広くある趣向のジュエリーの啓蒙を続けていかなければ、アンソロジーで提案する本物のジュエリーの魅力を完結できない。小売店は独自の拘りで魅了していく必要がある。

MISS ANTHOLOGYの企画のテーマも「本物」だ。イミテーションからラグジュアリーな世界へ引き込むのが狙いだ。若年層にまだ知らない「本物」に出会ってほしい、本物を纏うことで大人へのステップを体験させる。そして自分探しの旅に出かけるきっかけになった「本物」の良さに気づいてもらうことで、楽しい人生をスタートさせる時には、いつも「本物のジュエリー」を求めたくなるよう日頃より若年層へ本物のジュエリーを啓蒙することである。

逆若年層へ本物を伝えることで何かに気づくことが、業界の改革の始まりにもなることだろう。きっと若年層から教わる何かがあるはずで、時流に乗った宣伝方法や若年層が好むスタイルを取り入れることで、我々のデザイン性の向上や優れた作品を生み出すきっかけになることが望ましい。

一方で、日本のジュエリー文化が生まれたのは戦後と言われ、そう長い歴史もなく文化として育まれてきてはいない。ジュエリー業界が目指すべきは日本らしいジュエリー文化を作ることではない。日本独自の文化を作らなければ、ものづくりとしての産業は繁栄せず、資産価値や希少性だけの販売では確立されたジュエリービジネスは望めなくなりそうだ。

普段の何気ない生活習慣の一部に「本物」が愛され、本物から心が芽生え、心のゆとりから豊かさが生まれるような環境作りが文化に繋がっていくことを、さりげなく支持しているのが栄光時計であり、この厳しい時に文化を作ろうという、未来へ残す業界へのメッセージの第一歩となることに期待したい。

## 注目のLeoPizzo(レオ・ピッツォ)が登場

### 美への情熱と伝統を紡ぐ イタリアンジュエリーは必見

1971年、北イタリアの宝飾都市ヴァレンツァでレオ・ピッツォは誕生した。創業者であるレオンツィオ氏は23〜24歳の時にヴァレンツァの工房でデザインと技術の経験を積み、小さな自分の工房を開いた。

その後、宝石学者のサラと出会い、レオンツィオ氏のデザインに深い知識と技術を加え、レオ・ピッツォのジュエリーに更なる深みを与えた。

2010年頃には息子のタンクレディ氏とロッコ氏、娘のサラ氏が事業に加わり、レオ・ピッツォは更なる成長を遂げる。彼らはそれぞれの専門性を活かして、経営、デザイン、マーケティングなど様々な分野で活躍していく。

そうして発展を遂げたレオ・ピッツォは、2012年に長年の功績と信頼を称えられイタリア共和国の騎士勲章を授けられた。さらに2019年には、イタリアを代表するブランドやメーカーを選出するエッチェレンツェイタリアーネに選出されるなど、世界中の注目を集めるブランドとなった。

レオ・ピッツォのデザインの原動力は、美への追求だ。以前はレオンツィオ氏がデザインまでしていたが、現在ではレオンツィオ氏が描いたスケッチを基にデザイナーがアイデアを解釈し、発展させることで独創的なジュエリーが誕生する。

それは特定の女性に向けたもので



はない。すべての女性は一人ひとり違い、その人それぞれの個性を引き立てるものがジュエリーであるとしてレオンツィオ氏は考えている。

また、レオ・ピッツォのジュエリーは現代的なものの中にもどこかクラシックなエッセンスと優美さを表現している。普遍的なエレガンスの追求こそが、レオ・ピッツォのジュエリー愛の根底にあるものだ。

さらに、「Made in Italy」を誇ることを大切にしている。それはイタリアンジュエリーの創造性の高さや信頼性に対する確かな自信の表れである。そして時代を超えて愛されるジュエリーを生み出すために、「丁寧にジュエリーを作り上げる」ことに情熱を注ぎ続けている。

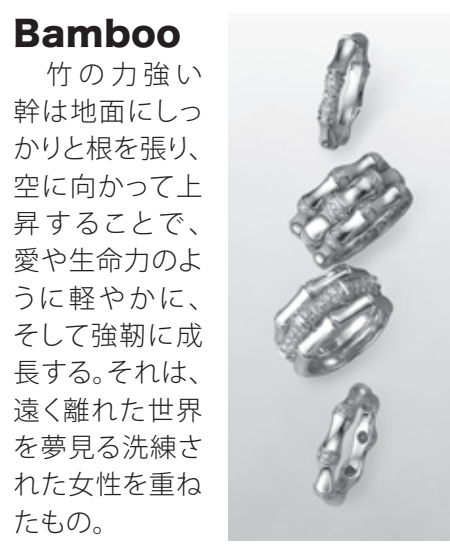
美への情熱と、イタリアの伝統を受け継ぐレオ・ピッツォのジュエリーは、女性の個性を輝かせ、人生をより豊かにしてくれるものである。

## Collections



### Amore

女性が生み出す愛を賞賛したジュエリー。愛は強力な感情で、その多様性は情熱的、叙情的、プラトニック、友情的、親子愛など。そして愛は特別な人への貴重な贈り物。人々の関係を深め、人生に豊かな意味を与える。



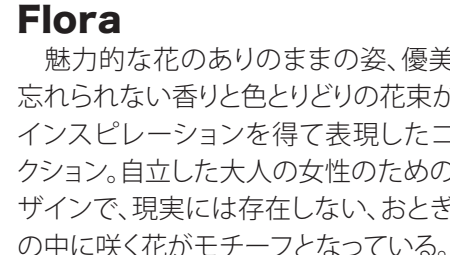
### Bamboo

竹の力強い幹は地面にしっかりと根を張り、空に向かって上昇することで、愛や生命力のように軽やかに、そして強靱に成長する。それは、遠く離れた世界を夢見る洗練された女性を重ねたもの。



### Colors

50年以上にわたり、世界中で最高品質の貴石を厳選。それらを大胆なデザインと巧みな製造技術を用いて、貴石の美しさを最大限に引き出したコレクションで、歴史ある貴石が生み出す驚異的なバイタリティを具体化したジュエリー。



### Flora

魅力的な花のありのままの姿、優美で忘れられない香りや色とりどりの花束からインスピレーションを得て表現したコレクション。自立した大人の女性のためのデザインで、現実には存在しない、おとぎ話の中に咲く花がモチーフとなっている。

## 「口上」

### 栄光ホールディングス 会長 小谷年司



したが、今回は天下晴れての気分でご

昨年、案内申し上げます。やはり、宝飾品の展示は華やかに限ります。心を浮き浮きさせる居場所が、人を豊かな気分にする誘い、美しく光り輝くものに、さらなる魅力を与えてくれます。来年の大阪万博のテーマは「命輝く未来社会」ですが、美しい宝飾品は、身に着けた瞬間から命を輝きます。アンソロジー(詩華集)では、いかなる美との出会いがあるか、探し始めた時に、命は明けの明